



デミング賞 評価基準改定 について

2018年度～

時代の変化に合わせ評価項目を融合

～「サプライチェーン」「知識の蓄積・活用」「社会責任」～

「デミング賞」は、経営目標や戦略を実現するためのツールとしてTQM（Total Quality Management、総合的品質管理）を活用する際の指針を示し、その挑戦・受賞までのプロセスを通して、組織能力の飛躍的な向上を図る絶好の機会として多くの組織に活用されてまいりました。

デミング賞委員会が審査を行う際の基本は、「審査そのものは、それぞれの組織の状況を反映したものとすべき」という考え方に基づいています。これは、1951年のデミング賞の創設当初から変わっておりません。

デミング賞の審査で用いられる基準は、時代の要請に応じて数度の改定が行われてきました。現在用いられている評価基準は、それまで示されていた「審査の視点」をよりわかりやすくすることを目的に、2002年に改定されたものです。

他方、デミング賞に挑戦する企業・組織の業種、業態、規模及び経営環境は時代とともに多様化しており、それぞれに応じた顧客指向の経営目標・戦略を策定し、その実現のためにTQMを活用することが益々重要になってきました。このため、デミング賞委員会では、「デミング賞

を受賞できる組織とは」ということで、3つの条件を示しています。これは俗に“デ賞受賞3条件ABC”と呼ばれ、受審組織も審査委員もすべての原則としてTQM推進や審査のよりどころとしています。その3条件は、次ページで示す通りであります。

「デミング賞を受賞できる組織とはA～C」に対応した形式に基準を改定

これまでの評価基準「基本事項」「特徴ある活動」「首脳部の役割とその発揮」と、デ賞受賞3条件ABCとは、密接な関連を持ちながらも、両者の関係については曖昧になっていました。そこで、今回の改定では、“デ賞受賞3条件ABC”と完全に対応する形に評価基準を整理し直しました。これにより、受審側も審査側も審査時に何が必要とされているのかが、これまで以上に明確となりました。

時代の変化に合わせ評価項目（サプライチェーン、知識の蓄積・活用、社会責任）を融合

近年の経営環境の変化により、企業・組織は次々と新たな課題に対応する必要に迫られています。中でも今回デミング賞委員会が新たに示した「サプライチェーン」「知識の蓄積・活用」「社会責任」は、

ボーダーレス化した経営環境の中、必要不可欠と言える項目と考えます。このため、今回の改定では、実際の企業・組織活動に即し、これらの項目を従来の評価基準に付け加え、融合する形で評価基準を整備・改定いたしました。

デミング賞の審査は、デミング賞が提示する品質管理のモデルへの適用を求めるのではなく、自ら状況認識し、課題と目標を定め、組織をあげた改善・改革を行った結果とその過程、そして将来にわたる有効性を評価しようとするものです。審査委員は、その組織の実状にあった課題が設定され、その組織の実状にふさわしい取り組みがなされてきたか、その活動により、将来さらに高い目標達成の可能性が期待しうるかを審査することに努めています。

今回の評価基準の改定が今まで以上に企業・組織のTQMの理解と実践に役立つことを期待しています。

これまでの、「基本事項」「特徴ある活動」「首脳部の役割とその発揮」という3カテゴリで評価基準が構成されていましたが、「デミング賞を受賞できる組織とは」のA)～C)に対応する形で基準を整理し直しました。

従来の「首脳部の役割とその発揮」は評価項目Aの中に、「基本項目」は評価項目Bの中に、「特徴ある活動」は評価項目Cの中に、中核となる要素として位置づけています。

<デミング賞を受賞できる組織とは>

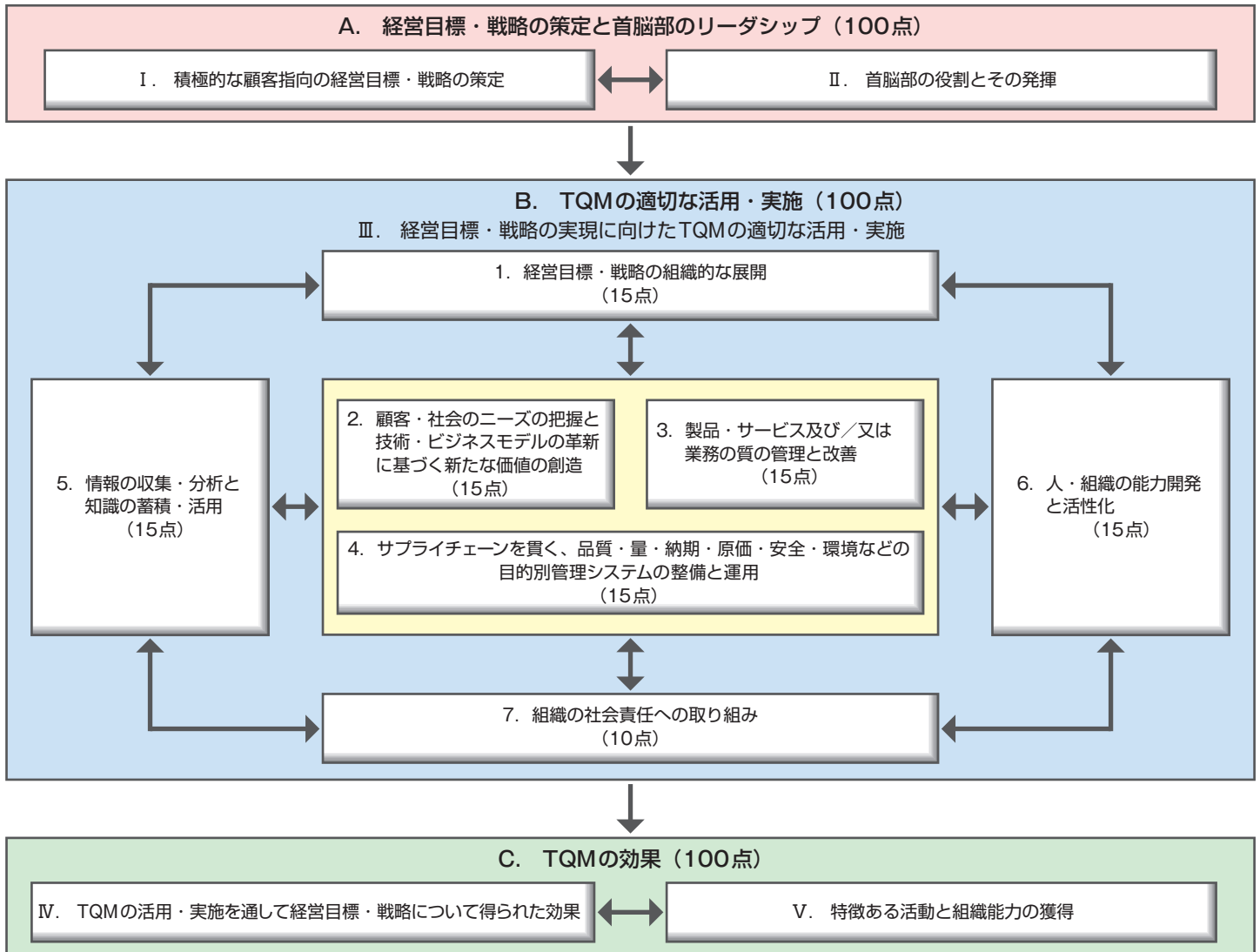
TQMにより、次の3項目を実現している応募組織に授与されます。

A) 経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じて、明確な経営の意思のもとに積極的な顧客指向の、さらには組織の社会責任を踏まえた経営目標・戦略が策定されていること。また、その策定において、首脳部がリーダーシップを発揮していること。

B) A) の経営目標・戦略の実現に向けて、TQMが適切に活用され、実施されていること

C) B) の結果として、A) の経営目標・戦略について効果をあげるとともに、将来の発展に必要な組織能力が獲得できていること

評価基準



デミング賞 評価基準 [現行]

①基本事項

評価の項目	点数	合格判定
1. 品質マネジメントに関する経営方針とその展開	20点	70点以上
2. 新商品の開発及び／又は業務の改革	20点	
3. 商品品質及び業務の質の管理と改善	20点	
4. 品質・量・納期・原価・安全・環境などの管理システムの整備	10点	
5. 品質情報の収集・分析とITの活用	15点	
6. 人材の能力開発	15点	

②特徴ある活動

評価の項目	点数	合格判定
・ トップのビジョン、経営戦略、リーダーシップ ・ 顧客価値の創造 ・ 組織のパフォーマンスの大幅な改善 ・ 組織の経営基盤の確立 など	5点	3.5点以上

③首脳部の役割とその発揮

評価の項目	点数	合格判定
・ TQMに対する理解と熱意 ・ トップのリーダーシップ、ビジョン、戦略方針、環境変化に対する識見 ・ 組織力（コア技術、スピード、活力の維持と強化） ・ 人材の育成 ・ 組織の社会的責任	100点	70点以上



デミング賞 評価基準 [2018年度～(予定)]

A. 経営目標・戦略の策定と首脳部のリーダーシップ


評価の項目	点数	合格判定
I 積極的な顧客指向の経営目標・戦略の策定	100点	70点以上
II 首脳部の役割とその発揮		

B. TQMの適切な活用・実施

評価の項目	点数	合格判定
III 経営目標・戦略の実現に向けたTQMの適切な活用・実施	100点	70点以上
1. 経営目標・戦略の組織的な展開	(15点)	
2. 顧客・社会のニーズの把握と技術・ビジネスモデルの革新に基づく新たな価値の創造	(15点)	
3. 製品・サービス及び／又は業務の質の管理と改善	(15点)	
4. サプライチェーンを貫く、品質・量・納期・原価・安全・環境などの目的別管理システムの整備と運用	(15点)	
5. 情報の収集・分析と知識の蓄積・活用	(15点)	
6. 人・組織の能力開発と活性化	(15点)	
7. 組織の社会責任への取り組み	(10点)	

C. TQMの効果

評価の項目	点数	合格判定
IV TQMの活用・実施を通して、経営目標・戦略について得られた効果	100点	70点以上
V 特徴ある活動と組織能力の獲得		



今般改定の評価基準は、2018年度にデミング賞・デミング賞大賞を受審する組織の審査から適用する予定です。

なお、2017年12月までは改定が行われる旨を告知する周知期間となりますが、この間に、2018年度から適用予定の評価基準を試行したTQM診断を先行して実施する予定です。この結果によって、評価基準の文言などが一部修正される場合がありますので予めご了承ください。

評価基準に関する情報は、デミング賞のwebで逐次お知らせいたします。

また、2018年度以降にデミング賞、デミング賞大賞への応募をご検討されている組織には、都度最新情報をご提供いたします。

デミング賞大賞の合格判定（点数）については2016年12月に基準を公表する予定です。

※このパンフレットでお知らせした内容は2016年10月現在のものとなります。

デミング賞に関するお問い合わせは、下記デミング賞委員会事務局へどうぞ。

デミング賞委員会 事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

一般財団法人 日本科学技術連盟内

電話：03-5378-1212（平日9:00～17:00）

FAX：03-5378-9842

E-mail：demingprize@juse.or.jp